

講義名	観光文化論		
科目区分	学部専門基礎		
担当教員	山川 拓也		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科/2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2019年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

## 主題と概要

日本あるいは世界において、これほどに「観光」が語られ、関心を集める時代は恐らく今までになかったであろう。本来、個人の娯楽・趣味の対象である観光が、いつの間にか世界中で巨大な社会現象となり、なかでもとりわけ、人の流れによってもたらされる膨大な経済効果に注目が集められている。しかし、観光は経済現象として重要であるだけではない。これほど、観光が全ての人にとって身近なものになった時代はなかった。日本においても、20世紀前半までに生きた世代にとっては夢の世界であった海外旅行も、多くの人に可能なものになった。1964（昭和39）年の海外旅行自由化とともに、恐る恐る怖がりながら団体を組んで欧米諸国への旅行に出発した日本人も、今では世界中を一人で気ままに歩き回る時代になった。海外旅行の経験は、私たちの外国認識に新しい視界を与え、個人としてのライフスタイルに大きな刺激をもたらした。ここで示される意味として、観光は経済活動である以前に、私たちひとりひとりの生活の一部だということである。その内容や形態に多少の違いはあるにせよ、どの地域にも、どの民族にも存在している現象であり、習慣である。つまり、観光行為そのものが、人間がつくりあげた貴重な文化であるといえる。本科目では、文化としての観光が、私たちの生活や生き方にとってどういう意味を持っているのか、社会全体ではどのように受容されているのかという基本的なテーマを考えることを目的とした。そのために、授業の前半では、旅や観光という現象がどのような形で行われてきたかを中心に、それらが社会に与えた影響や時代毎の評価など、過去の観光の姿を説明していく。後半では、20世紀以降における観光の特徴的な動きについて、主要テーマ毎に紹介することにより、現代人が好み、求める観光の形を把握する。その上で、20世紀後半から議論され始めている新しい観光の理念を紹介するとともに、現代社会で観光がどのように評価されているかを検証し、その状況の中で、これから私たちは観光にどう向き合っていくべきかを考えたい。

## 到達目標

観光の基本構造についての理解を深め、生活文化としての観光の意義と重要性を一層深く認識できるようになる。

## 提出課題

毎回の授業終了時に提出を求める「リアクション・ペーパー」

## 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

リアクション・ペーパーに記載された内容で解説等を加える必要があると判断したものは、授業の中で適宜フィードバックを行う。

## 評価の基準

- ①前半の理解度確認： 50%  
②後半の理解度確認： 50%

\*欠席・遅刻・申告なき離席・態度不良および類似する行為があった場合、一定基準のもとで減点する。  
（毎回の出席確認は、マークシートを用いて厳格に実施する）  
\*リアクション・ペーパーの記述内容が優れる場合、一定基準のもとで加点する。

上記基準による総合評価とする。特に、正当な理由なき遅刻や早退、スマホなど電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語・睡眠・着帽の継続、教員の指示や指導に従わないなどについては、態度不良・授業妨害と判断する。これらは成績評価に重大な影響を及ぼすので厳に慎むこと。

## 履修にあたっての注意・助言他

本科目は、人間社会学部の「学部専門基礎科目」に位置づけられる。その意味は、いずれの学科に所属するかに関わりなく人間社会学部の所属学生が、専門科目を受講する上での共通基盤を形成できるようにするものである。したがって、本科目の意義と重要性を十分に認識して受講に臨むことを切に願いたい。

教科書	. 観光文化学 旅から観光へ	飯田芳也	古今書院	¥2500+税	978-4-7722-3147-3

## プリント資料及び参考文献

プリント資料： 毎回の授業では講義レジュメを配布し、パワーポイントを使用して授業を実施する。  
参考文献： 講義中に適宜紹介する。

## 授業計画

1. ガイダンス（概要説明）、開題：観光と文化の関わりからみる「旅の原点」とは何か
2. 観光と文化（観光と文化の様々な関わりと「ホスト・ゲスト論」）
3. 観光の起源（古代から中世までの旅と観光）
4. 「学び」としての観光（教育的旅行・旅による人格の形成）
5. 「保養」としての観光（欧米のリゾート文化/日本人にとってのリゾート）
6. トマス・クックの時代（19世紀における近代観光の誕生）
7. マスツーリズムの台頭（20世紀における大量消費型観光）
8. 前半の理解度確認
9. 団体旅行と海外旅行①（団体型と個人型：旅行スタイルの変化）
10. 団体旅行と海外旅行②（日本人の海外旅行体験）
11. 模型文化としてのテーマパーク/伝統芸能のイベント化
12. 伝統文化集積としての宿泊施設
13. 観光を考える①（観光の負の効果の克服）
14. 観光を考える②（現代社会における観光の評価）
15. 後半の理解度確認

## 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

## 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（予習：120分/回）教科書の該当講義部分を読み、ポイントとなる箇所について整理し、効率的な受講に備える。  
（復習：120分/回）講義中に説明・補足された内容を整理し、受講で得られた知識類の効果的な定着に努める。

## 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

## 実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」  
旅行業および旅行サービス手配業での実務経験（欧州を中心とする海外団体旅行の企画造成、営業、添乗、海外駐在、市場戦略などのマーケティング）で得た知識・知見を活用し、分かりやすい事例紹介なども取り入れながら、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

## 備考

本科目は「座席指定制」にて実施する。また、進捗状況によって、授業の進行方法や内容を変更する場合がある。